

◎研究ノート

The Han style mirrors in Ehime No.36

東予の鏡 (補遺4)

今治・別名一本松の漢式鏡

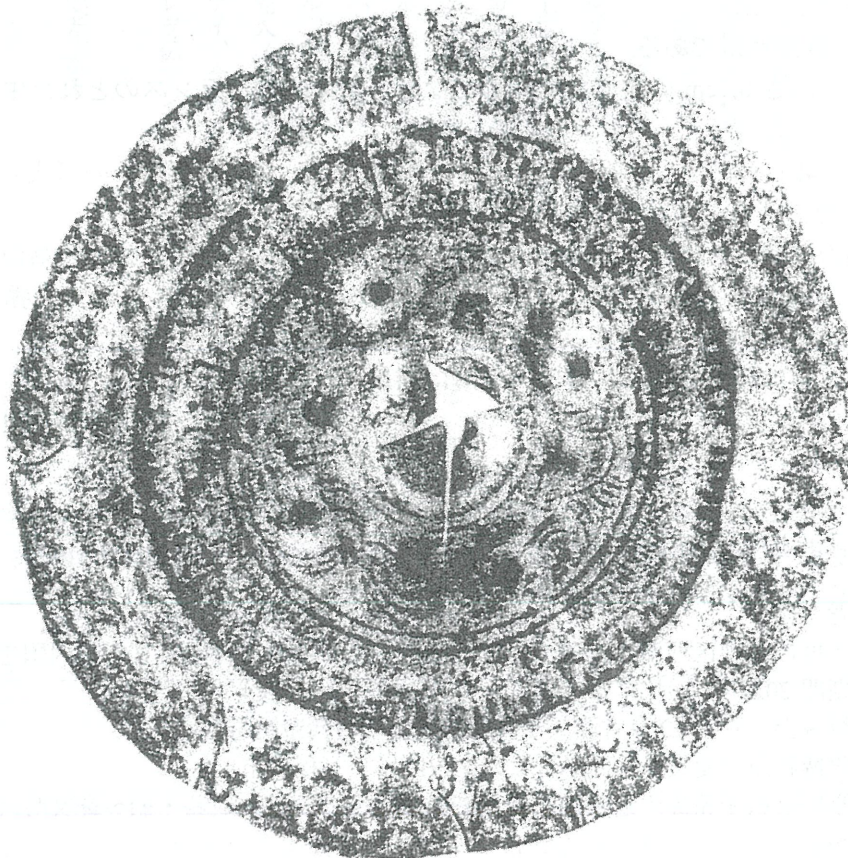
名本 二六雄

今治市の西部外周の低丘上に前期、中期の古墳が営まれて、その数は5基を越えるかもしれない。

海岸に近い「別名 (betu-myo)」周辺では、古墳時代前期と思われる、小さいながらも前方後円墳が営まれており、近年の「開発」によってそれらが発掘され、後円部に2基の主体があつて、各々から一面の青銅鏡が発掘された。(別名一本松古墳)

主体部は後円部中央に2基があり、いずれも「土壙+木棺」が形成されていた。主体は、長さ3m強、幅1m弱の「木棺の痕跡」が、古墳主軸に並んで確認され、棺内頭部に「朱」が確認されるあたりで、各棺頭部に一面ずつの鏡鑑が確認された。

第一主体からは「四葉座鈕内行花文鏡」が、第二主体からは「仿製四神四獣鏡」が確認された。



第1図 四神四獣鏡 径11.0cm

会所だより

5月例会報告

2024年5月12日(日)、そがめ塾にて5月例会を開催しました。

参加者… 正岡睦夫・名本二六雄・清水眞一・河原 茂・遠部 慎・西村直人・井出耕二・十亀幸雄
・山之内志郎 合計9名(順不同・敬称略)

1、例会(10:00～12:30)

(1) 事務局

① 『遺跡』56号の刊行について

A4判で188ページ、200部を印刷しました。本日の例会終了後に梱包作業を行いました。

② 『遺跡』57号(2024年度)共同研究について

これまでの特集で欠けている地域の補遺編を集めて刊行します。例えば、「縄文・弥生時代の石器」、「出土銭貨」等。

③ 『遺跡』58号(2025年度)共同研究の候補について

下記のとおり色々な候補が出ましたので、このうち全県的なテーマに絞り、どのテーマにするかを事務局が検討していきます。

- ・初期須恵器 ・土師器と須恵器の共伴関係 ・各地の特例の須恵器
- ・渡来人が入ってきた地域について ・縄文～中世の生産遺跡
- ・鶴久森熊太郎氏等の業績や研究史 ・箱式石棺の再集成

(2) 下記のとおり各会員から発表がありました。

- ① 山之内志郎・十亀幸雄 「松山市宮ヶ谷古墳の墳丘測量」
- ② 名本二六雄 「東予の青銅鏡」
- ③ 遠部 慎・名本二六雄・正岡睦夫 座談会 「上黒岩岩陰遺跡をめぐって」

(山ノ内志郎報告)

7月例会のご案内

下記のように7月例会を開催します。よろしくご参集下さい。

日時 2024年7月21日(日) 午前10時から12時30分

場所 愛媛県砥部町 そがめ塾 (tel 089-905-2925)

1、例会(10:00～12:30)

(1) 会所

- ① 会誌『遺跡』56号販売状況について。
- ② 今年度共同研究について

(2) 下記のように会員から発表があります。

- ① 正岡睦夫 「箱式石棺研究史」
- ② 名本二六雄 「別名二本松古墳出土鏡」 ニュースター188号を持参下さい
- ③ 十亀幸雄 「西条市近世太兵衛堰」 ニュースター188号を持参下さい

その他の方の発表は交渉中。当日の発表、歓迎します。プロジェクター・PCが使用できます。

第188号目次

東予の鏡(補遺4) 今治・別名一本松の漢式鏡	……名本二六雄	1
伊予の中近世河川灌漑(10) 西条市太兵衛堰 —中山川に残る近世斜堰—	……十亀幸雄	3
愛媛東中南博物館インフォ9月	……	会所 2
会所だより	……	会所 12